

わしのうまれぬ

でんでんむしよ

いつもあじむの

いえのなが

いゑの中には

すまゐわすれど

あめのふるそが

つのおちだす

わしのうまれぬ

たけのこまぬ

かわあはがれで

もるはだが

たがらう山にわ

てあこしをばこひ

おなしかえりて

えぬかよし

たがらう山にわ

のり^ほたなうらば

たがらうもろをて

かえりまよしよ

たがらうもろうらにや

てまよまいらぬ

あやのこえ

こよじもこ

きくくしゆうのが

なによりだら

およびまてわ

まのうあわぬ

きんてみさんせ

まよしものみあを

むりなをこえしや

なんわらぬ

わいの心ころにや

きくまあならぬ

あやのぬんりて

あやのぬんりて



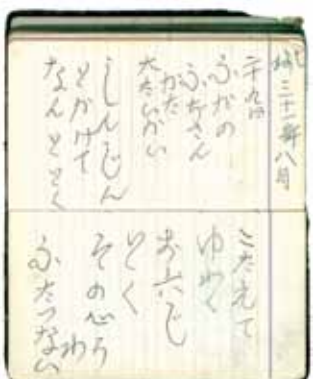


春がきまましうた
めでたしはるが
ちきさんばさんむ
にしこし
春ゆ花さく
の山のをくは
つづじつばきの
花がさく
ときもよんしきて
ちよやのみかん
むねにみどりの
花がさく

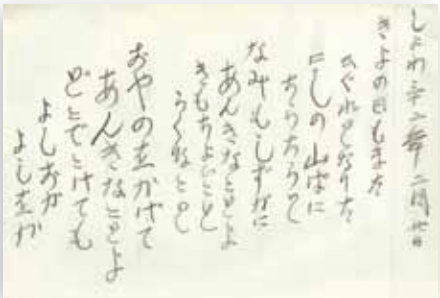
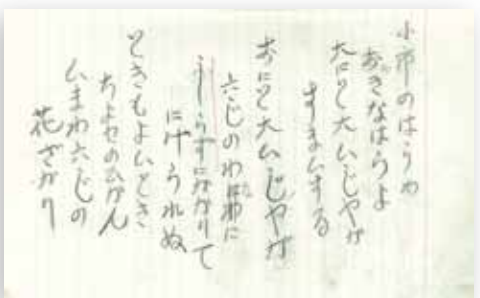
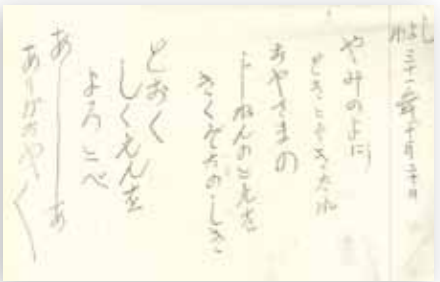
春のはじめの
帰よろこび
めでたく
ぞんぞ
りあ
ななばけり
ばけてゆみたが
こんどこそ
ああおやのまゑにゆ
おおだした



右上は、昭和四十三年年に発行された、「豊前の小市同行 法の宝の口づさみ」の原本。
その他は、中畑小市が折に触れて歌った詩文の原文と、言葉を綴ったノートや手帳。



中畑小市は、明治三年五月、福岡県築上郡築城町に宮本久次郎の次男として生まれ、父親を助けながら成長。学校に行くのが困難な状況だったため、夜間、片仮名と平仮名を習っていた。二十九歳の時に中畑家に養子縁組し、以後農業兼木炭焼ぎに専心従事する。明治三十四年、実父の死をきっかけに真剣な蘭法を始め、法座があれば、遠い道のりを厭う事無く参詣した。晩年は近隣の寺の法座に詣り、九十三歳の天寿を全うするまで、その法悦の姿は、多くの人々に慕われ続けた。



「豊前の小市同行 法の宝の口づさみ」の原本は、福岡県築上郡椎田町（現 築上郡築上町）浄土真宗本願寺派 北豊教区 築城組 長壽寺にて、昭和四十三年に編纂された。
再版となる本編の編纂のため、浄土真宗本願寺派 北豊教区 築城組 金剛寺門徒の大森達生が、原文の現代語への読み替え、校正、編集にあたっている。☒は原文を現代語に訳したものだ。

なにがほん
きへもちが
よいで
あろをが
とてゆわく
こたえて
ゆわく
おやにたかれ
たので
あろ

